

地名と名前を読む 3

前回の最後に出てきた(e)に続きがあります。「源右衛門」の隣に書いてある部分です。代はほとんど崩してありませんので、「代」。これは源右衛門の代理で押印したということです。次の五は、第16回、19回、22回で出てきた「五」です。久しぶりに出てきたので、



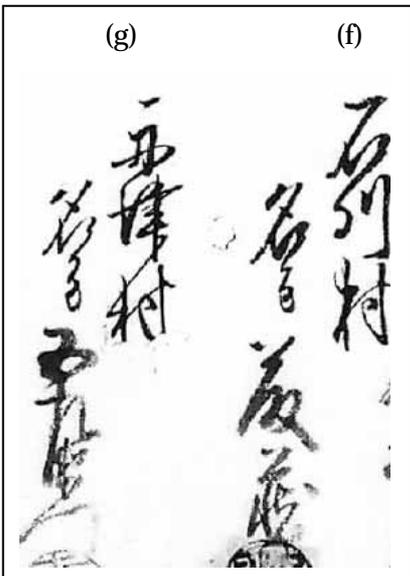
忘れていたと思います。次の郎の部分がこのポイントです。この字は「郎」という字です。「郎」が付く名前の字は「太郎」とか限定されていますので、慣れれば想像が付きやすいと思います。次の左は、この文字だけでは読みにくいのですが、これは人名が書いてある、最後の門は、(e)の「源右衛門」の「門」と似ているので「門」のようである、という2つを組み合わせると、左は「左」で、門の前にある衛が「衛」に当りそう

うだということになります。まとめると、「代 五郎左衛門」となります。少し難しかったと思いますが、

次に(f)ですが、最初の村の名前は「石川村」で、次の肩書きも「名主」です。ここまでは問題ないと思いますが、

次の藤は難しいと思います。もっともこの字は、現在でも割と使われているくずし字で、伊藤さんや佐藤さんの中には、署名などで使っている方もいるのではないのでしょうか。これは「藤」という字です。

次の蔵も難しい字ですが、これも名前には頻出する字で「蔵」という字です。このような名前に頻出する字は、理屈抜きに覚えてしまった方が良いでしょう。



(g)は最初の舟が難しいだけだと思います。この字で目立つのは舟の横画だと思

います。横画が貫いている字で思い当たる字は「舟」「舟」「毎」等がありますが、上に付いている舟の部分の部分を考えると「舟」が一番近そうです。なお、字の形からは「亦」という字も思い当たるかも知れませんが、舟の部分折れています。したがって、これは「舟津村」です。肩書きはやはり「名主」で、名前の部分は既に出てきました。今度は「五左衛門」です。今回は(e)と異なり、はっきり「左」という字が見て取れます。